



# 開催報告

## With 2026 年Web学習会



2025/11/22

JAM中央女性協議会With  
2026年度Web学習会  
2026・2027年度運動方針



### 【開催概要】

開催日時	2025年11月22日(土) 10:00~12:00
開催方法	Web 開催
参加者数	49名
内容	①講演「『全員』が働きやすい職場にするために女性がもっとはたらきやすくなる10の工夫」 講師: 淀川キリスト教病院 産婦人科医 柴田綾子 医師 (NPO 法人女性医療ネットワーク 理事) ②With2026 年度運動方針、重点活動計画と行動計画について

### 【学習会の概要】

NPO法人女性医療ネットワーク柴田綾子理事(淀川キリスト教病院 産婦人科医)より、  
 連合総研の報告書『女性労働者の職場における健康課題』に示された実態を踏まえて、女性労働者が抱える健康課題と、  
 労働組合に求められる支援のあり方について説明いただいた後、Withの運動方針や重点活動計画、  
 行動計画を共有し、Withの取り組みを周知しました。

### 【主な講演内容】

『全員』が働きやすい職場にするために女性がもっとはたらきやすくなる 10 の工夫

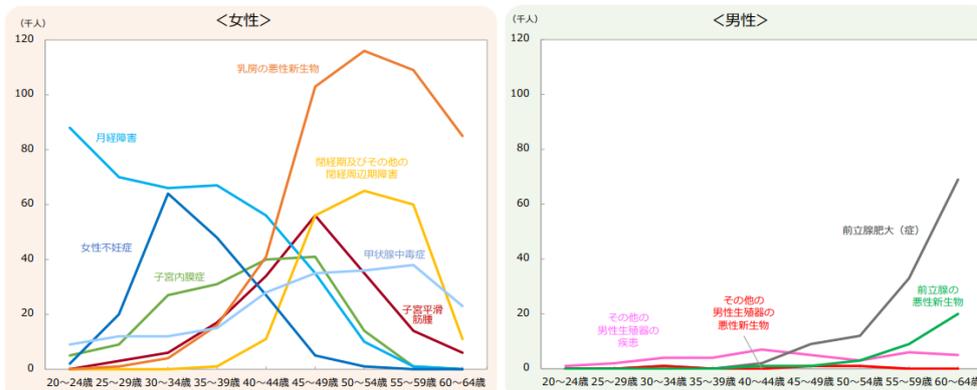
#### 人間は「分かりあえる」のか

内閣府による令和5年度「男女の健康意識に関する調査報告書」(男女約2万人を対象にしたインターネット調査結果)によると、女性特有の健康課題について「女性社員や女性上司の理解があると働きやすい」という回答が多く、女性同士でも理解しあうことの難しさが伺えます。

しかし、**知識を持つことで「配慮」はできます**。また、相手を「知ろう」とすることもできます。

# 性別による「違い」 女性は働く世代(20～50代)で問題を抱えやすい

令和6年度男女共同参画白書より



(備考) 1. 厚生労働省「令和2年患者調査」より作成。  
 2. 発患者数は、ある傷病における外来患者が一定期間ごとに再来するという仮定に加え、医療施設の種類日を考慮した調整を行うことにより、調査日現在において、継続的に医療を受けている者（調査日には医療施設で受療していない者を含む。）の数を次の算式により推計したものである。  
 総患者数 = 推計入院患者数 + 推計初診外来患者数 + (推計再来外来患者数 × 平均診療期間 × 調整係数(6/7))  
 推計に用いる平均診療期間は99日以上を除外して算出。  
 3. 「乳癌の悪性新生物」及び「甲状腺中毒症」は男性も罹患するが、女性に多い病気である。

3

## 女性の健康課題の経済損失は 3.4 兆円/年

特に、離職を選択される場合が多い「更年期」による経済損失は 1.9 兆円にもなる。経済損失の規模から考えても、個人の調整で解決を図る問題ではなく、**組織として対策をすべき問題**です。

## 職場には相談していない人がほとんど

2～3割の女性が月経や更年期症状がありますが、ほとんどの人は職場に相談をしていません。症状があることを宣言している人は少ないですが、症状を抱えている人は少なくありません。加えて、一人ひとりに症状を我慢して仕事をしてもらっても、問題は解決していません。例えば、**更年期障害は約 10 年間も症状が続きます**。1年間は症状を我慢できたとしても、**システムを変えなければ乗り越えられません**。

## 女性の健康課題

女性が直面する主な健康課題は以下の通りです。

### 月経症状(生理痛・PMS・月経困難症)

- ・約6割の女性が症状を経験していて、業務に支障をきたすこともあります。

### 更年期障害

- ・45～55 歳に多く、年間約 46 万人が更年期離職しています。
- ・日本人、ものづくり産業の方に特に多い症状が「関節痛」です。

### 妊娠症状

- ・妊娠初期は、職場に妊娠を公表しづらい時期なので、理由を明確にくい場合があります。
- ・長椅子等の休養設備や洋式トイレ、作業時に座れる椅子等の設置が働く妊産婦への支援になります。
- ・搾乳室が設置されているかどうかは、職場復帰のタイミングに影響します。

### 不妊症

- ・4 人に 1 人が治療により休職・退職を経験しています。
- ・不妊治療を言わなくても時短勤務などの柔軟な勤務ができることが求められています。

# 女性がもっと働きやすくなる 10 の工夫

## ■ 服装・室内環境の見直し

### ①服装(靴)の規則を見直す

カーディガンや運動靴を許可し、冷え対策を可能にする。

### ②室内の温度設定を見直す

冷え性や妊娠中、更年期への配慮。

※つわり中の人は頻繁に水を飲まなければならないので、業務中に水分補給できる環境も重要です。

## ■ 休暇制度・働き方の工夫

### ③有休の理由記載を不要にする

病名を伝えなくても休める環境にすることで、男性も家族などの事情で休みがとれるようになります。

### ④時短・フレックス制度を導入する

業務内容のマニュアル化などで、誰かが不在でも業務が滞らない環境づくりが必要です。

## ■ 職場環境の整備

### ⑤安全な女性トイレをつくる

プライバシーに配慮した洋式トイレの整備。

### ⑥トイレにこまめにいけるようにする

安全で使いやすい女性トイレの整備や必要なタイミングでトイレ休憩を取れる体制が必要です。

### ⑦女性用の休憩室をつくる

プライバシーに配慮した休憩室の設置など、身体的・精神的に安心できる環境づくりの重要です。

## ■ その他

### ⑧夜間残業を減らす

### ⑨乳がん・子宮頸がん検診を会社でカバーする

早期発見と治療促進のため、企業負担で検診を実施。

### ⑩女性社員の意見を会社に取り入れる

現場の声を反映した制度設計で、実効性を高めてください。

## 質疑応答より

### ◆管理職の立場から見た「配慮」と「評価」の考え方

質問:体調不良によるパフォーマンス低下と本人の努力不足をどのように見極めるべきですか。

回答:管理職が健康状態を判断することは難しいです。

「体調が悪そうに見えるけど、大丈夫？」といった声かけを行い、

**必要に応じて受診を勧めることが重要です。**

### ◆理由を問わない休暇制度の「悪用」への懸念

質問:理由を問わず休暇を取得できる制度は、悪用される可能性への懸念があります。

回答:決められたルールや取得上限の範囲内であれば問題とする必要はなく、

**最終的には業務への貢献度や成果をもとに評価することが重要**であると考えます。

### ◆更年期症状や体調変化へのセルフチェックと対処

質問:更年期症状の始まりをどのように判断すればよいですか。

回答:検査キットによる**セルフチェック**や、**まずは一定期間サプリメント等を試してみる**などの選択肢があります。